

関西学院大学 研究成果報告

2026年5月17日

関西学院大学 学長殿

所属：総合政策学部

職名：教授

氏名：佐山 浩

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	☒ 特別研究期間 ☐ 自由研究期間 ☐ 大学共同研究 ☐ 個人特別研究費 ☐ 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	第二次世界大戦を挟んだ激変期における自然風景地の公園指定の変容に関する研究
研究実施場所	日本国内
研究期間	2025年4月1日 ～ 2026年3月31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

本研究は、（１）1934（昭和9）年から1956（昭和31）年の厚生省国立公園関係セクションにおける国立公園新規指定・拡張についての考え方と準備状況、（２）1934（昭和9）年から1956（昭和31）年の都道府県における自然風景地の保全・利用を目的とする（自然）公園設置の動き、（３）GHQ（General Headquarters, the Supreme Commander for the Allied Powers）による戦後の国立公園行政への関与とそれへの対応の3点について、行政機関の一次資料、新聞記事をはじめとする報道資料のほか、現地調査で収集した補足資料により明らかにすることを目的としている。

研究の結果と成果は次のとおりである。

戦前から戦後の道府県による公園（主に自然や風景を主体としたタイプのもの）設置の動きについては、3つのタイプ（①太政官達に根拠をおいて設置された全て国有地タイプ、②道府県独自に設定されたタイプのうち国公有地のもの、そして③国公有地以外を含むもの）が併存することが明らかになった。このうち③のタイプのものは1932（昭和2）年春に東京日日新聞及び大阪毎日新聞が主催して行われた日本八景選出の投票を契機とする公園設置に向けての地元の精力的な活動の成果である事例が少なからず見られることが複数県（広島県など）の文献調査によって確認できた。このことを踏まえて、更に調査を進めたところ、戦後、昭和25年に毎日新聞社が行った「新日本観光地100選」が、戦前の日本八景と同様に都道府県立自然公園の指定等に影響を与えた可能性が高いことが明らかになった。

並行して精力的に作業を進めていた田村剛博士（日本の「国立公園の父」と呼ばれている）の著作データベースについては、おおむね整理することができたことから、奈良県立大学の水谷知生先生と一緒に「田村剛著作 リスト作成とそれを通じた著作傾向の分析」『総合政策研究No.71』（関西学院大学総合政策学部研究会）として取りまとめた。なお、本データベースについては、今後の調査研究上、重要な基盤となることから、加筆・修正作業を現在、継続して行っているところである。

また研究期間中、国立公園等の現況等を把握するため、次のとおり、現地調査を鋭意行った。対象地は次のとおりである。なお、現地調査の順に列記した。加えて、カッコ内には現地調査に際して、特に留意した点や調査の着目点を書き入れている）。

福島県立南湖自然公園（1801（享和元）年に白河藩主松平定信が築堤し、民衆に開放したため池と周辺エリアと公園区域との関係、保護計画（特に地種区分）と現地の現状把握）大山隠岐国立公園（かつて牛馬市が行われていた大山寺エリアと公園区域との関係、保護計画及び利用計画上の位置づけと現地の現状把握）、琵琶湖国定公園（八幡山エリアと公園区域との関係、ロープウェイの利用計画上の位置づけ及び周辺エリアの保護計画上の地種区分と現地の現状把握）、瀬戸内海国立公園（宮島エリアと公園区域との関係、特に保護計画及び利用計画の位置づけと現地の現状把握）、西中国山地国定公園（三段峡エリアと公園区域の関係、保護計画及び利用計画上の位置づけと現地の現状把握）、大山隠岐国立公園（出雲大社の国立公園（特に保護計画上の位置づけ）と現地の現状把握）、島根県立浜田海岸自然公園（国指定天然記念物・石見畳ヶ浦の天然記念物区域と公園区域との整合性と現地の現状把握）、北長門海岸国定公園（世界文化遺産の構成遺産となっている萩城の登録地域と公園区域の重なり合いと現地の現状把握）、瀬戸内海国立公園（関門地域における公園指定区域と各視点場、視対象の関係性と現地の現状把握）、埼玉県立安行武南自然公園（全域普通地域指定という規制の緩い公園内の施設整備の状況、特に川口市グリーンパークエリアについて、及び風景保護の程度の現地の現状把握）、瀬戸内海国立公園（サイクリストの聖地であるしまなみ海道の中継基地となっている瀬戸田港エリアの現地の現状把握（特に利用実態と利用施設の整備状況））、霧島錦江湾国立公園（桜島港近傍にあるビジターセンターの施設内容と利用実態の現況把握）、西海国立公園（国立公園の集団施設地区である九十九島エリアの現状把握、特に施設整備状況について）、福岡県立矢部川県立自然公園（立花藩時代（1695年頃）に築かれた堤防上に植栽され、国指定の天然記念物に指定されているクスノキの群落と公園区域の整合性と現地の現状把握）

現地調査の詳細は現在整理中であり、2026（令和8）年度以降、逐次、取りまとめを行い、『総合政策研究』等に論文や調査レポートとして発表する予定である。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。